

こんにちは!むとう葉子です

❀対話、出会い、元気をいただいています!❀



活動を始めて約2ヶ月余、訪問と対話に力を入れてきました。

私は話をするとき心がけていることがあります。それは、相手の目を見て話をすることです。相手の目を見つめて、自己紹介をしながら挨拶をしていると、相手も自然に話をしてくれることが多いと思います。

「分断された社会」!?

いろいろなご意見を聞く中で、最近特に感じるがあります。それは、「分断された社会」ということです。例えば、若いママに介護保険料の引き下げを求める署名をお願いしても「子育てが大変で、それどころじゃない。」と断られたり、逆に高齢の方には「子育て支援ばかり取り上げて・・・。」と叱られたりすることがよくあります。



戸田公園駅

自分の生活を送ることに精一杯で、他人のことを考えたり、思いやる余裕が無くなってしまっているのです。それどころか「あの人達さえいなければ、自分達の暮らしはもっと良くなるのではない

か」といった思いを抱くようになってしまいました。まるで、移民を排除しようとする某国々に似ています。

どうしてこんなことになってしまったのか。国の政策がそうさせているのではないかと私は考えています。

若者が希望を持てる社会を!

どうすれば、社会が一体となり『誰もが輝ける街』になるのだろうと悩みながら訪問を続けていると、60代位の女性に会いました。「若い人達は、これから大変よ。若い人が希望を持てる世の中にしないと日本は潰れちゃうわよ。」と訴えてきたのです。

そうか!!確かに子供や若者はエネルギーに満ち溢れています。私の子供もそ



ベルクス前

うですが、努力した事を褒め、おいしいごはんを用意すると喜んでいきます。若者もやりがいのある仕事に就けて、十分な給料と食事が出来、将来に展望が持てれば、足の悪い高齢者に手を貸す余裕もできるのではないかと思います。「若い人が希望を持てる世の中」にするこ



と。霧が少し晴れました。やっぱり対話は、面白い!!元気をいっぱいいただいています。



12月11日(日)もちつき会。天気快晴、早朝より役員、知人、友人が多数集合。会場設営のため、せつせと働く姿がとてまたくましい。まきを割る人、かまどに火を熾す人、餅米を研ぐ人、蒸し釜にセットする人、餅をつく人、捏ねる人。あんこ、きなこ、納豆、からみ、白餡、前日より処理する女性群のパワーも抜群。パックに御餅2切れずつ仕分け、カットする人、熱くて大変。餅券販売、バザー、紙芝居、ウクレレ演奏、交通整理、豚汁を販売する人、産直野菜もありました。



当日は、風は冷たいものの晴れ渡り、餅つき日和。つきたてのお餅を求める長い列にうれしい悲鳴。この餅つき会が地域の年中行事になっている事を実感しました。

公園のあちこちでお餅や豚汁を味わいながら会話をはずませる姿に、また若手に餅つきの技を伝えるベテランの姿に“つながりあう地域”がうかがわれました。

私たちは裏方仕事の合間にお餅の試食。味わいながら会話を交え忙しい中にも楽しい交流ができました。

お餅はどれもおいしかったのですが、私の中では、きなこ餅がナンバーワンでした。(K・S)

大変お世話になりました

日本共産党戸田もちつき地域後援会長 鈴木隆次

日本共産党

むとう葉子後援会

ニュース

発行

日本共産党
むとう葉子
後援会
Tel・fax
433-5225

◆市議会議員◆
もちつき久晴

生活相談
お気軽に

政治革新の道しるべ
真実つたえ希望をはこび

しんぶん
赤旗

日刊紙 3,497円
日曜版 823円

部内資料



望月さんご苦労様でした

むとう葉子後援会会長 高坂陸子



12月
議会報告

小中一貫校(東小・東中)に異議あり

日本共産党市議団長 もちづき久晴

不思議なクニの憲法を見つけた。

戦後から日本に復帰するまで沖縄には憲法がなかった(日本国憲法が及ばなかった)ということに驚きました。今も沖縄県民はオスプレイの騒音や墜落の危険(12月13日に墜落した!)、米軍基地があるために苦しみ続けています。オスプレイは欠陥機でしょう。それを知らながら日本に持ってくる。アメリカ言いなりで情けない。国民よりアメリカを大事にする安倍政権にタレントのMさんは、「自分たちさえ良ければ」「金がもうかればいい」ということだと批判していました(赤旗日曜版)。私もそのとおりに思います。

国民のことを考えてほしい。社会保障を充実してほしい。憲法9条と25条を大事にしてほしい。介護保険料はどんどん高くなるのに年金は下がる一方です。ブラック企業の横行と非正規雇用が当たり前の社会。

この国は先の見えない迷路に陥っているのか。若者よ、スマホ(ゲーム)ばかり見てないで、世の中を見よう。一緒に少しでも明るい社会にしようよ。(H・G)



望月議員の大規模校による弊害についての厳しい質問に対して、市教委の答弁は極めて抽象的で具合性に欠けるものでした。また、望月議員の具体的な提案に対しては否定的で、すでに小中一貫校ありき、そのために校舎の建て替えをする、という筋書きで、子ども達の発達無視のやり方に、大きな疑問を抱きました。この問題を多くの市民の皆さんにお知らせして、一緒に考えていく必要があるのではないかと強く感じています。



望月議員の質問は5点。私はその中の東小・東中の建て替えによって、大規模な小中一貫校にするという市に対する質問を、関心を持って聞きました。

12月2日、望月議員の一般質問の傍聴に行ってきました。

今回は環境問題と教育問題を取り上げました。

1、生ごみ回収事業とEM培養液等の河川投入の是非

■NPO法人による家庭の生ごみ回収事業の委託料が回収実績を上回っているが

実績と委託料の差額の数字をあげて質問しましたが、当局からは具体的な答弁はありませんでした。

■不法投棄の恐れはないか

効果がわからないEM培養液やEM団子の材料を市が提供し、環境団体が河川に投入していることの問題性を指摘しましたが、団体の活動趣旨は尊重したいと容認する答弁でした。



2、東小・東中統合の問題点と諸課題

■大規模校で一人ひとりに目が行き届くのか

東小・東中を建替えて統合することによって、平成33年度1,722名、34年度で1,803名と超マンモス校になります。各児童・生徒一人一人の把握、学校行事や部活動や学年内・異学年間の交流、教職員相互の連絡調整、施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じやすい。これらの課題をどのように克服していくのかただしましたが、教育部長は、「児童・生徒が増えれば、教員が増えるので問題ありません」と答弁。懸念される疑問には答えませんでした。

■敷地面積は基準の半分になるが

統合した場合当然敷地は狭くなり、児童生徒があふれ、活発な活動が出来なくなるのではと質問しましたが、教育部長は、「県の教育委員会に聞きましたら、問題ないとの回答でした」との答弁でした。

■建設工事・解体工事によって、3年間校庭が使用できないが

体育・部活動は工事期間中どのように対応するのか質問しました。教育部長は「設計がまだ決まらないので詳細は言えないが、校庭が全部使えなくなる訳ではない。他の学校と合同で練習したり、他校の校庭を借りるなど工夫していきたい」との答弁でした。

■通学区を変更し、超大規模校の弊害を緩和しては

喜沢小の通学区を変更すれば教室不足の問題は解消でき、東中も空き教室となり活用できる。「建替え」先にありきではなく、まず、通学区変更をすべきではと提案しましたが、教育部長は「通学区の変更は難しい」との答弁でした。

1,803人
小学校1年生から
中学3年生まで
県下随一の
超マンモス校!!



むとう葉子事務所にお出かけください



戸田市喜沢南2-5-16
あすなろ通り
新田クリニック前

☎ 048-444-5660/5661 Fax 048-433-5225